

証券コード：7472

“百年の信頼を未来につなげる”

2024年3月期 第3四半期 決算説明補足資料

2024年2月8日(木)
株式会社鳥羽洋行

I. 2024年3月期3Q決算について

II. 今後の戦略及び見通し

I .2024年3月期 3 Q決算について

<連結損益計算書の概要>

(単位:百万円)

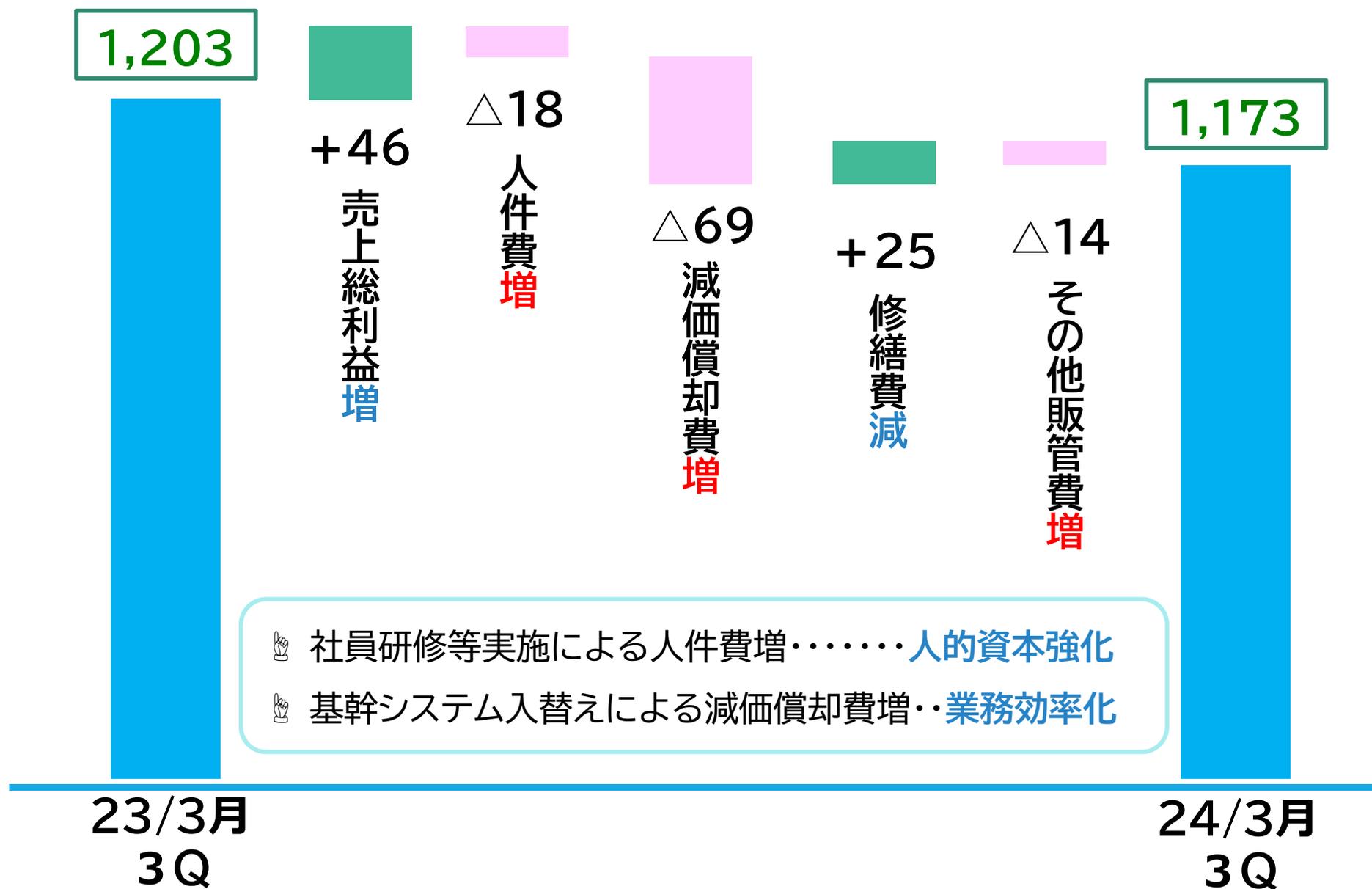
	23/3月期 3Q	24/3月期 3Q	前期比 (増減率)	備 考
売上高	21,576	21,355	△1.0%	国内は前年同期比で微増 海外は中国の景気低迷により減少
営業利益	1,203	1,173	△2.5%	販売管理費は前年同期比で4%増
営業利益率	5.6%	5.5%	△0.1P	
経常利益	1,289	1,249	△3.1%	
経常利益率	6.0%	5.8%	△0.2P	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	898	855	△4.7%	
四半期純利益率	4.2%	4.0%	△0.2P	

Point!

- 売上高はメモリ半導体の需要回復が伸び悩み前年同期比で減少(△1.0%)。
- 売上総利益は前年同期比増(+1.5%)。
- 販売管理費は前年同期比増(+4.0%)により、利益減。

<連結営業利益増減分析>

(単位:百万円)

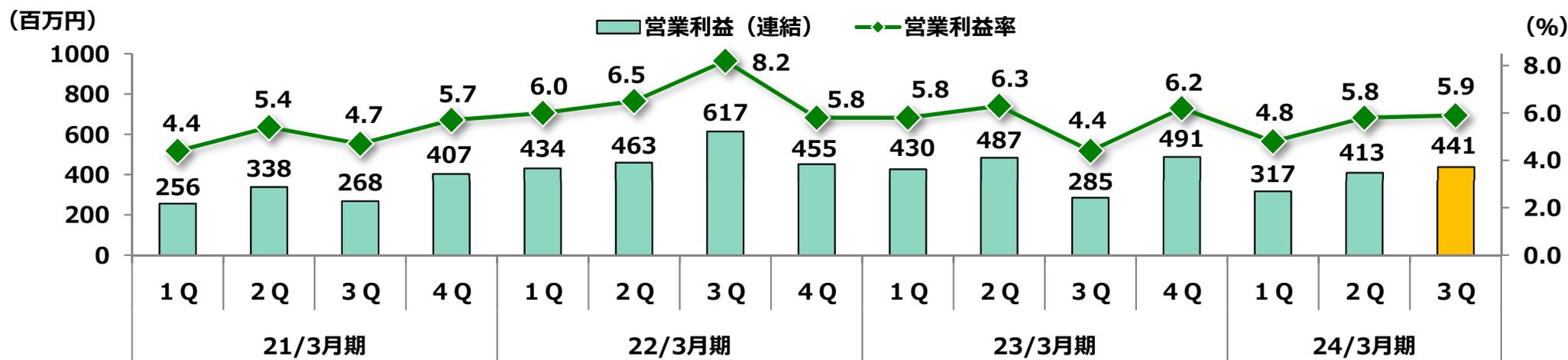


<四半期毎の売上高・営業利益(連結)の推移>

売上高



営業利益(連結)/営業利益率



Point!

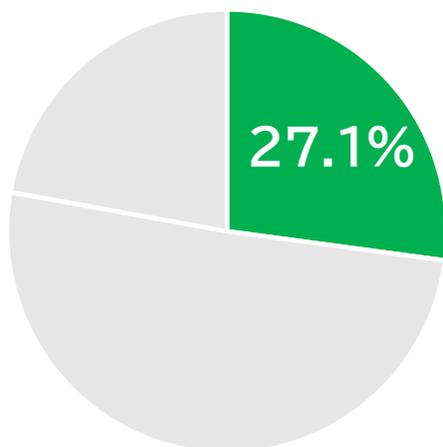
- ・ 3Qに入り、売上・利益ともに増加傾向。
- ・ 国内売上は、自動車関連の得意先への販売が好調に推移し、微増。一方、中国の景気減速の影響を受け、連結子会社(鳥羽上海貿易有限公司)の売上が伸び悩む。

<部門別実績>

制御機器

連結売上高

57億88百万円



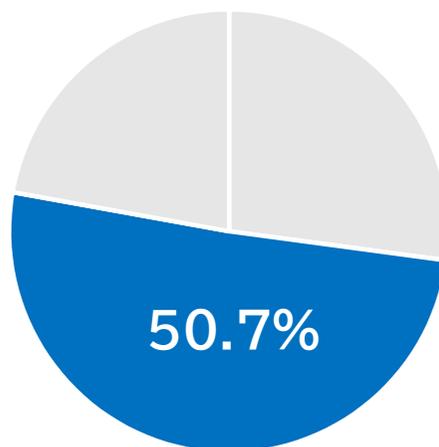
得意先の業種

デジタル機器/半導体・液晶製造装置/基盤実装機/自動車・車載部品/工作機械等

FA機器

連結売上高

108億30百万円



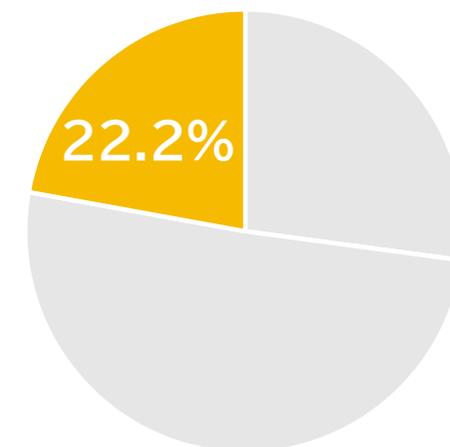
得意先の業種

デジタル機器/自動車・車載部品/半導体・液晶製造装置/OA機器/医療機器/食品機器等

産業機器

連結売上高

47億36百万円

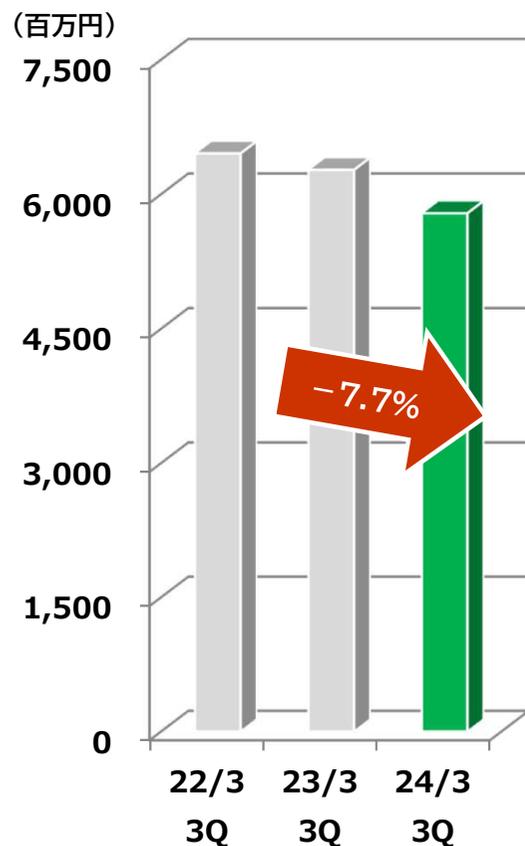


得意先の業種

デジタル機器/自動車・車載部品/半導体・液晶製造装置/精密機器等

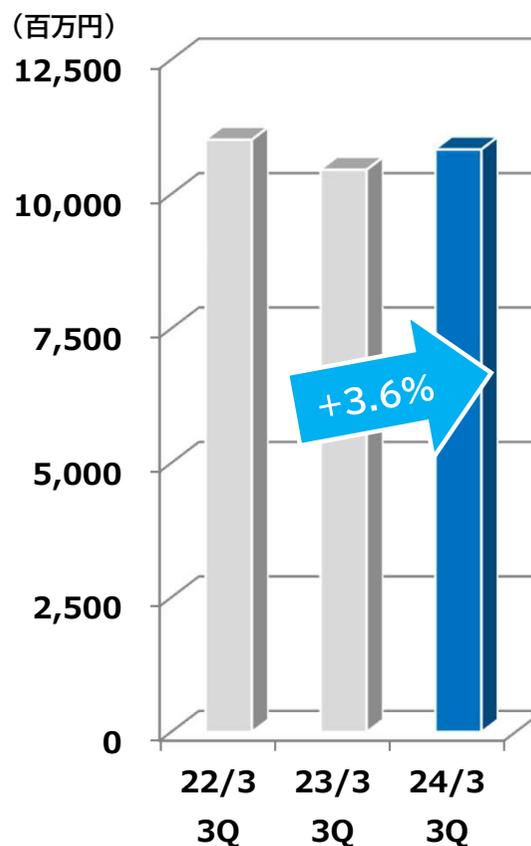
<部門別連結売上高推移>

制御機器



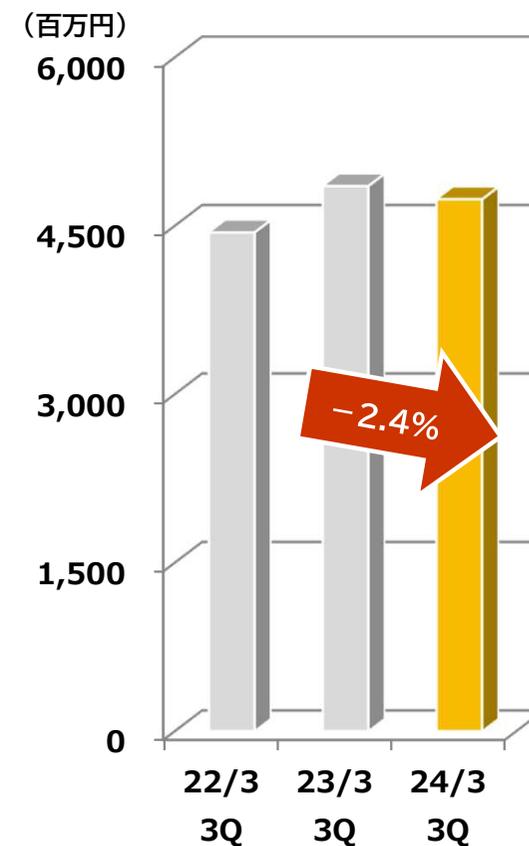
半導体製造装置関連の空気圧機器の販売が伸び悩み、制御機器全体の販売が低迷

FA機器



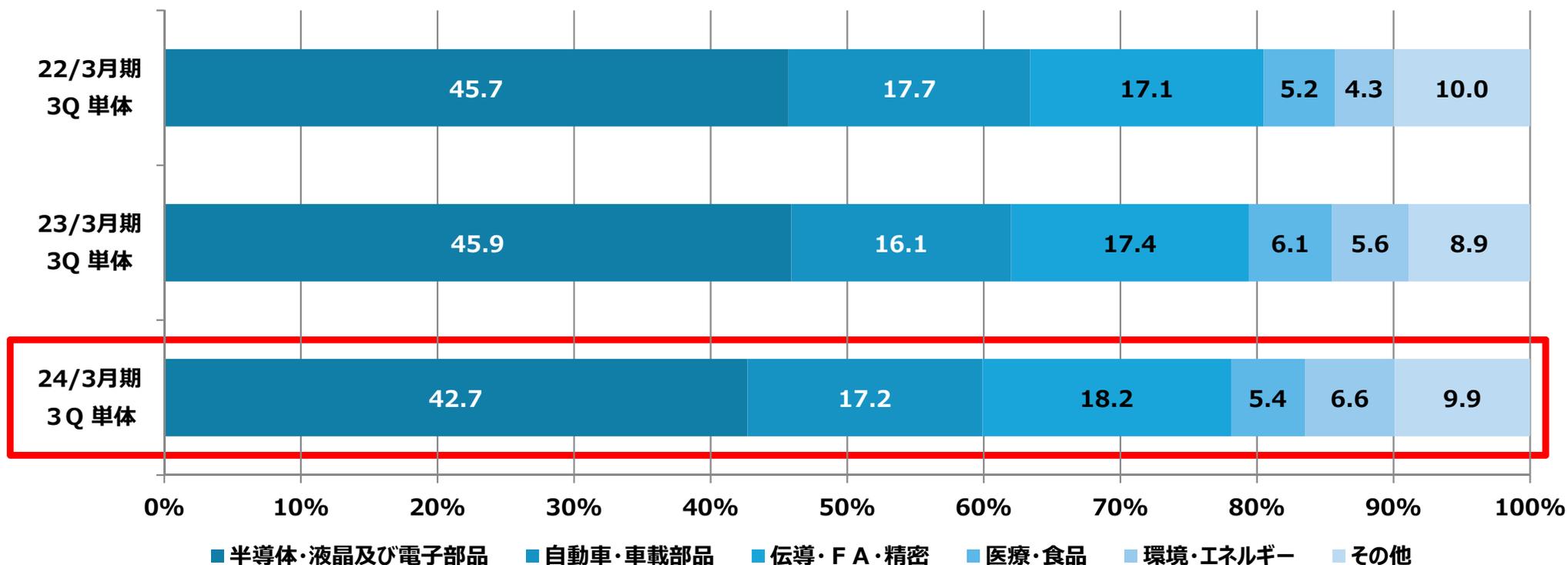
中国での販売は苦戦を強いられたものの、国内販売は車載部品関連得意先を中心に販売は好調に推移

産業機器



メモリ半導体の需要回復が遅れた影響により、半導体関連で使用されるフィルターの販売が前年を下回る

<業種別売上構成比(単体)推移>



Point!

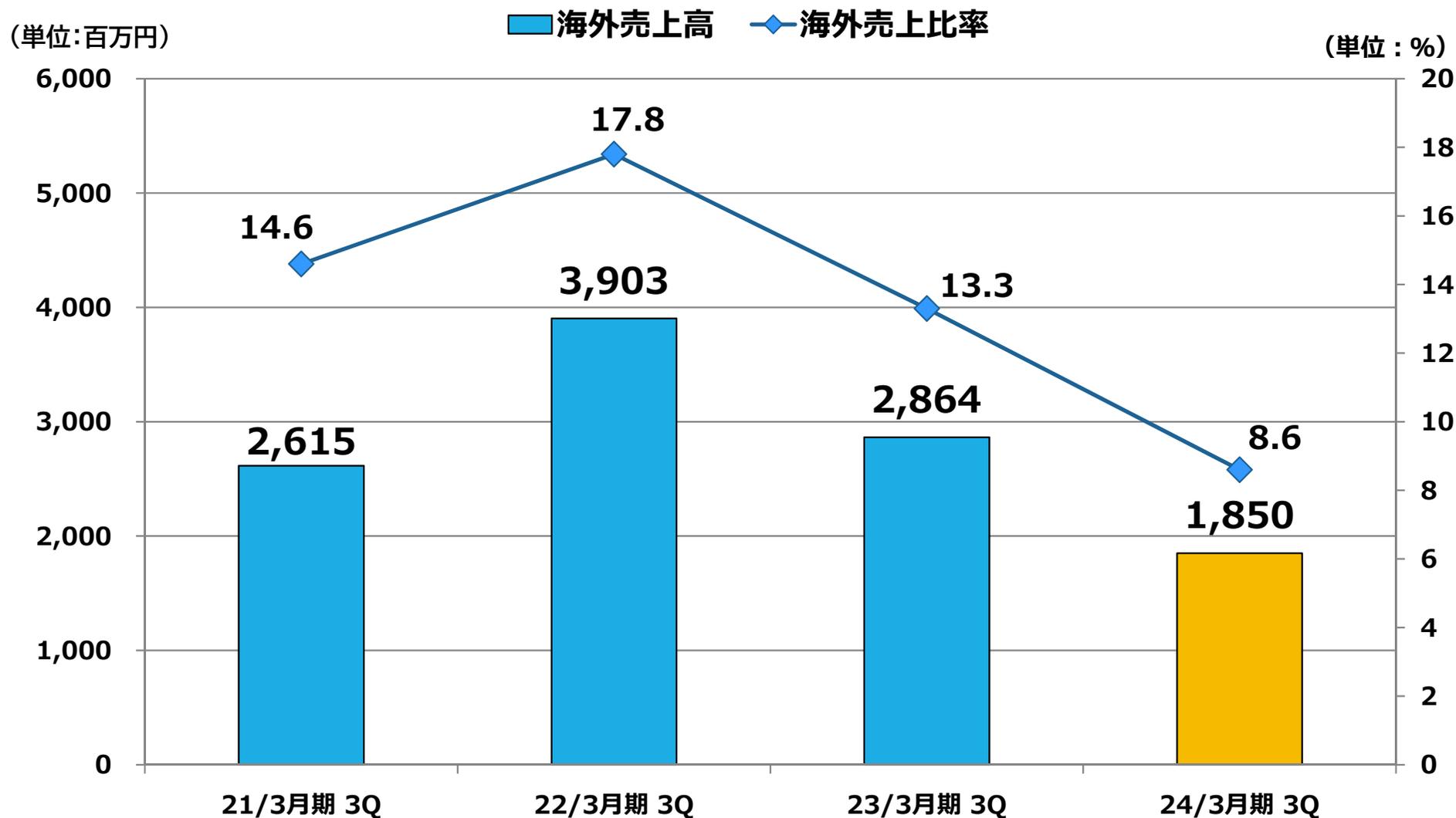
<半導体・液晶及び電子部品>

メモリ半導体の需要回復遅れの影響を受け、関連商品の販売が低迷。

<自動車・車載部品>

自動車生産台数の回復やEV・HV用車載電池の需要増加等により、関連商材の売上が増加。

<海外売上高・海外売上比率>



Point!

米国の対中半導体輸出規制や、中国国内の景気低迷の影響を受け、設備投資が低調に推移。海外売上高・海外売上比率共に伸び悩む結果となる。

<連結貸借対照表の概要>

(単位:百万円)

	23/3月末	構成比 (%)	23/12月末	構成比 (%)	備 考
流動資産	22,595	77.6	23,706	77.6	
現金・預金	11,012	37.8	11,974	39.2	
受取手形・売掛金 ※電子記録債権を含む	11,084	38.0	11,166	36.5	
商品	363	1.2	471	1.5	
固定資産	6,528	22.4	6,849	22.4	
資産合計	29,124	100.0	30,556	100.0	
流動負債	8,920	30.6	9,858	32.3	
支払手形・買掛金 ※電子記録債務を含む	8,099	27.8	9,363	30.6	
固定負債	403	1.4	529	1.7	
負債合計	9,324	32.0	10,387	34.0	
純資産合計	19,799	68.0	20,168	66.0	
負債純資産合計	29,124	100.0	30,556	100.0	

Point!

構成比に大きな変化はございません。

Ⅱ. 今後の戦略及び見通し

<2024年3月期の見通し>

◆ 経済活動の状況

物価上昇の影響を受け、国内の個人消費は弱含みが継続しているものの、賃上げ等の対応が進めば消費支出は徐々に増加し経済の下支え要因となる要素あり。一方、長引くロシアのウクライナ侵攻や中東情勢の緊迫等による地政学的リスクや中国の過剰債務問題の顕著化及び米国との対立等、景気低迷の懸念は引き続き数多く存在している。

◆ 半導体関連

情報通信技術の成長による各種設備投資マインドは活発さを見せつつあるが、メモリ半導体需要の回復速度は緩やかとなる見方あり。

◆ 自動車・車載部品業界

自動車生産台数の回復やEV・HVの車載電池の需要増加により、自動車・車載部品関連の生産設備向けの売上が好調となる見通し。

◆ 自動化生産設備

生産現場における労働力不足を補う自動化の流れは継続し、ロボットやFA機器の販売は好調に推移する見通しで、自動化システム案件も増加傾向。

<2024年3月期の連結業績予想>

(単位:百万円)

	第74期 (2023年3月期) 実績	第75期 (2024年3月期) 予想	前期比 (増減率)
売上高	29,482	30,000	1.8%
営業利益	1,694	1,800	6.2%
営業利益率	5.7%	6.0%	0.3P
経常利益	1,800	1,900	5.5%
経常利益率	6.1%	6.3%	0.2P
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,429	1,290	△9.8%
当期純利益率	4.8%	4.3%	△0.5P

<2024年3月期の戦略>



1 次世代の柱となるユーザー新規開拓、育成

- ・積極的な展示会出展と来場者フォローによる新規顧客開拓
- ・M&Aによる事業提携、互いの強みを活かした販売網の拡大

2 新商材発掘(SDGs/環境や人にやさしい商品)

- ・環境負荷や労働負荷を低減できる新たな商材の発掘

3 装置ビジネスの更なる販売強化

- ・労働力不足を補う自動化機器とロボットの販売強化

4 技術商社としての存在価値強化

- ・各種専門資格等の取得による提案型営業の推進
- ・人的資本経営推進 社員研修等による人材の育成

5 海外拠点との連携強化

- ・新規海外拠点の検討

<単品販売からトータルソリューションの提供へ>

当社の「あるべき姿」を求め、激変する多様な課題に対応
自動化の流れに対応した装置ビジネスの更なる販売強化を推進

自動化システム・ロボットシステム “FA PLANNER TOBA”

気候変動等環境問題	労働人口の減少
CO ₂ 排出量低減商品の提供	ロボットの提案による省人化 自動化システムの提案
人材の確保・育成	サステナビリティ経営
システムエンジニアリング強化 各種技能資格等の取得推進	[E] 気候変動への対応 [S] 人的資本経営 [G] 非財務情報の積極開示

<株式の取得（連結子会社化）について>

2024年1月31日、株式会社和泉テック及び株式会社和泉テクニカル・ラボの2社の全株式を取得し、連結子会社化いたしました。

当社グループと株式会社和泉テック及び株式会社和泉テクニカル・ラボは、得意とする販売先の業界及び業種が異なることから相互補完関係にあり、互いの保有する優れた商材と販売ノウハウを共有することで、当社グループの持続的な成長につなげてまいります。

■ 株式会社 和泉テック

■ 株式会社 和泉テクニカル・ラボ

宮城県仙台市泉区市名坂字御釜田143-4

大学研究機関を中心に理化学機械器具の受託販売、研究の受託及び測定機器の開発、製造を行っており、長年業界に特化したノウハウを活かした営業活動を展開しております。



株式会社 和泉テック
Science Technology Supporter



<中期経営計画「Next Stage 2026」について>

経営理念を軸とし、中期経営計画を策定し、事業活動を通じて企業価値の向上と持続可能な社会の実現を目指します。

(単位:百万円)

	計画		
	第75期 (2024年3月期)	第76期 (2025年3月期)	第77期 (2026年3月期)
売上高	30,000	33,000	36,000
営業利益	1,800	2,060	2,280
経常利益	1,900	2,160	2,380
当期純利益	1,290	1,480	1,630

Point!

- 2023年8月9日、新たに2024年～2026年の3ヶ年計画をリリース
- 今期目標数値:売上高300億円達成に向けて進捗中

※当社グループは、経営環境の変化等に対応すべく、「ローリング方式」により、中期経営計画を毎年度策定することとしております。

<資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応>

■ 経営指標の目標

当社は、**ROE 8%以上**を経営指標の目標として掲げております。これまで継続的に目標を達成できていないものの、当社資本コストを常に上回る水準で推移しております。

※当社の資本コストは一般的な計算方法で算出しており、複数の第三者(主に金融機関)による算出数値と照合を行うことで概ね妥当性を担保していると考えております。

■ PBR1倍に向けた対策

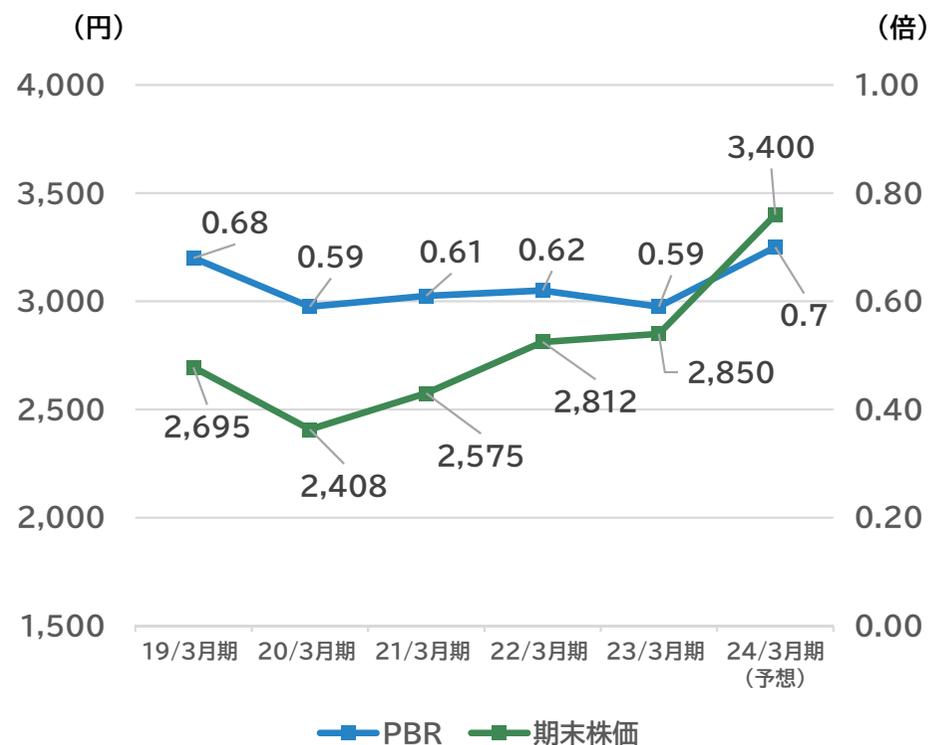
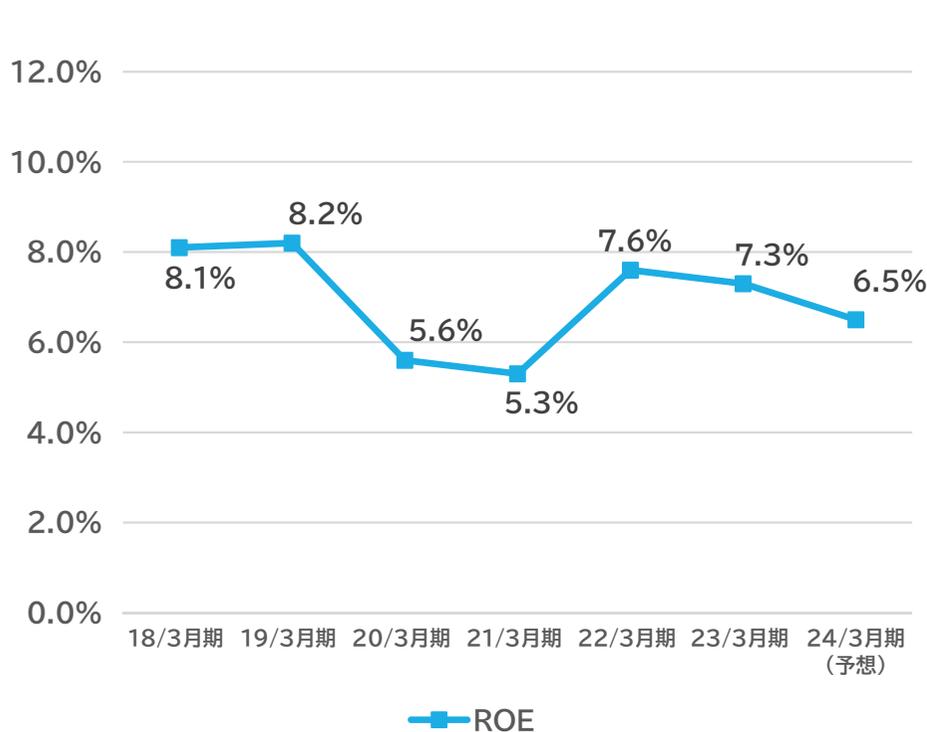
PBR(株価純資産倍率)については1倍を下回っている状況であり、この状況について取締役会において今後の対策を次のように検討しております。

- ① 収益性と経営基盤の強化については、営業効率の向上や社員教育等の人的資本への投資等、適切な経営資源の配分を行う。
- ② 株主還元については、配当方針(配当金1株40円を下限とし、配当性向35%以上)を継続し、適切な自己株式の取得を実施する。

以上の内容を中期経営計画へ反映し、経営環境の変化に応じた機動的な見直しを実施しながら、経営指標の目標達成を目指してまいります。

< 当社経営指標の推移 >

～ 当社目標値 ROE 8.0% / PBR 1倍以上～

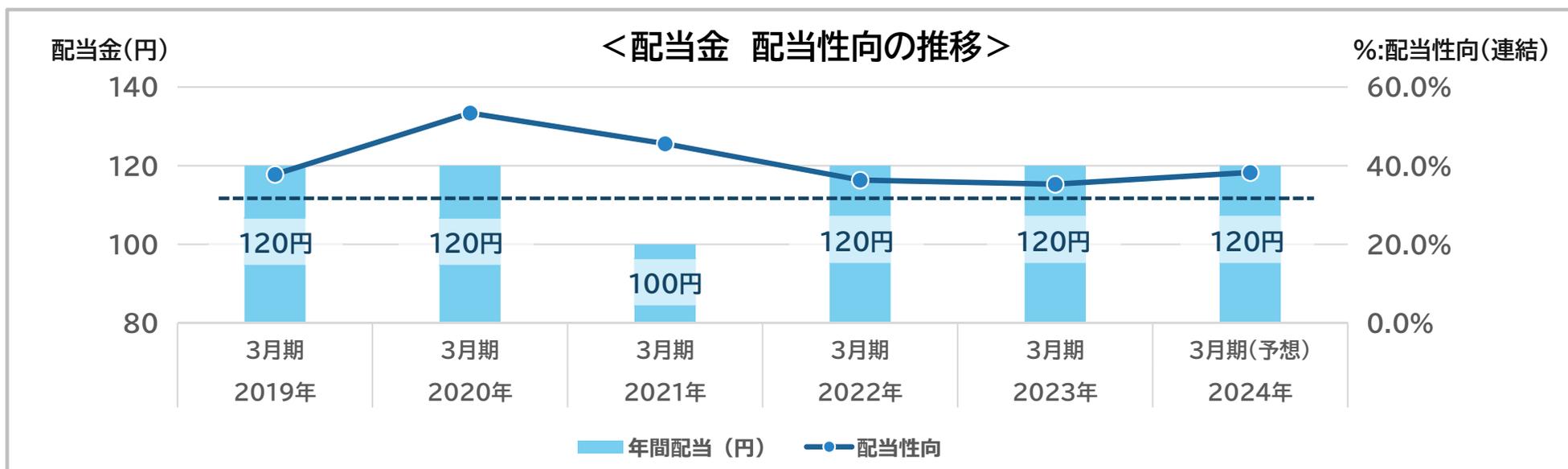


売上高 (予想)	営業利益 (予想)	株価 (23/12月末)	年間配当 (予定)	配当性向 (予定)	配当利回り (予定)	ROE 自己資本利益率 (予想)	PER 株価収益率 (予想)	PBR 株価純資産倍率 (予想)
300億円	18億円	3,400円	120円	38.3%	3.5%	6.5%	10.8倍	0.7倍

※上記表の数値は、2023年12月末時点の株価と当社の業績開示予想数値で算出しております。

<株主還元について>

- ◆ 配当方針:長期的、安定的な利益還元の実施を目標とする
- ◆ 連結配当性向を35%以上とし、一株当たりの配当金を下限40円とする
- ◆ 自己株式の取得等の間接的な株主還元についても機動的に対応



<自己株式の取得状況>

実施時期	取得株式数	取得単価	取得額	発行済み株式総数 に対する割合
2021年11月	70,000株	2,561円	179百万円	1.4%
2022年2月	50,000株	2,780円	139百万円	1.0%
2022年11月	145,000株	2,750円	398百万円	3.1%
2023年5月	33,800株	2,940円	99百万円	0.7%
2023年11月	80,000株	3,115円	249百万円	1.7%

<トピック：鳥羽洋行松本営業所 リニューアル>

■ 所在地

〒390-0835

長野県松本市高宮東4-25

電話番号:0263-27-4866

FAX番号:0263-27-4869



2023年12月、弊社松本営業所は建替えが完了し、新たに生まれ変わりました。これを機に社員一同、より一層の地域貢献を念頭においた営業活動を展開し、皆様のご期待に添える様、邁進してまいります。

この資料には、2024年2月7日現在における弊社の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。世界経済・競業状況等に関わるリスクや不安定要因により実際の業績が記載の数値と大幅に異なる可能性があります。

従いまして、その内容につきましては、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。また、本プレゼンテーションは、投資を勧める目的のものではございません。

[問い合わせ先]

株式会社 鳥羽洋行
管理本部総務グループIR担当

住 所:〒112-0005
東京都文京区水道2丁目8番6号

電話番号 :03-3944-4031

F A X :03-3944-4091

E メール :kanri-01@toba.co.jp